



「つながる思い まちの絆」

ふるさとだより

2012 年

6

月号
No.13

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

久之浜・大久

いわき文化復興祭の舞台へ
2年ぶりの運動会開催！

四倉

震災に負けず伝統文化を継承
シリーズ たったひとつの宝物

平

被災しながらも地域のために
薄磯区総会で区を法人化

小名浜

子どもたち全員でつくりあげた運動会
トピックス 地域の憩いの場が復活！

勿来

多目的に使えるサロンがオープン
シリーズ 元気いっぱい! なこそびと

[写真上] 震災で被害を受けた豊間中学校の校門近くでハマナスが花を咲かせています。

震災で津波の被害を受けたものの、元気に若葉を伸ばし、5月初旬から花が咲き始めました。復興事業計画では防災緑地にかかってしまうため、近くで民宿を営む鈴木幸長さん(60歳)は「せっかく生き残った花。大事に守っていきたい」と、地域で保存の方法を話し合っています。

[写真下] いわき市で小学校の運動会が、2年ぶりに開催されました。このうち豊間小学校(水谷大校長)では、かまぼこなど地元の名産品をリレーする「復興!! 豊間の名産品」など18種類の競技を行いました。また、プロジェクターで開催までの歩みを追った映像を流すなど、趣向を凝らした演出も盛り込まれ、児童、保護者、教職員が一緒になって楽しみました。



いわき文化復興祭開催

5月12日、13日の両日(いわき芸術文化交流館アリオス)をメイン会場にいわき文化復興祭が開催され、大勢の来場者で賑わいました。中劇場での芸能の部に、「海神乱舞」「野菊の会」「若貴会」「久之浜舞踊五月会」のみなさんが参加し、日頃の練習の成果を披露しました。

笑顔そして元気の輪を広げるお手伝い

海神乱舞

「いわき文化復興祭」のステージに「海神乱舞(片寄和子会長)の13名が立ち「正調鳴子おどり・応用編」を舞い踊りました。平成16年11月1日に発足した同会のメンバーは現在19名。「9年前、最初はお



いわき文化復興祭のステージで舞う「海神乱舞」のみなさん

祭りのために一回だけのつもりだったけど、その時の熱が冷めずに続いているのね」と会長の片寄さん。

昨年3月、メンバーの半数が自宅を津波で流されるなどして活動休止に。そして、練習を再開したのが7月。「大変だつて落ち込むより、体動かしていたほうがいいね。皆に会って踊れば元気になれる」とメンバーの水野谷真理子さん。

そして8月27日、久之浜復興祈念の奉奠祭花火大会で久々に舞いを披露。「瓦礫の中からの再出発でした。観ていただく方に、笑顔と元気の輪を広げるお手伝いができればと思っています」と片寄は話しました。



「海神乱舞」会長 片寄和子さん

文化復興祭でのステージから5日後の練習、ハワイトボードには秋までの予定がびつしりと書き込まれました。「忙しくなるよ!しつかり練習しなくちゃ!」なごやかに、そして時に厳しく、振り付けを確認しながら、次のお披露目に向けて練習が続きます。

2年ぶり校庭での運動会

5月12日、久之浜第一小学校(松本光司校長、児童173名)の春季大運動会が開かれました。特別ゲストとしてロサンゼルス、ソウル両五輪に出場した瀬古利彦さん、シドニー五輪に出場した高橋千恵美さんが参加。短距離走のスターターや審判を務めたほか、競技にも参加し児童と触れ合いました。そして、ミニ陸上教室も開かれ、児童らと一緒に校庭を走った瀬古さんは「腕を大きく振って、楽しく走るのが速く走る。一番のコツ」と、児童に走りの極意を伝授。



瀬古利彦さんのミニ陸上教室(久之浜一小)

「運動会のため新たに校庭に表土を入れ、雨水がぬかるむ所ではスポンジで水を吸い取るなど準備しました。校庭を元気づけたい駆け回る子供たちを見て、運動会が開催できて良かったと心から思います」と、松本校長は話しました。



保護者のみなさんも競技に参加し汗を流しました(久之浜二小)

5月20日、久之浜第二小学校(鈴木宣雄校長、児童29名)で大運動会が開かれました。児童たちの紅組白組に加え、保護者も青組黄組に分かれて対抗戦が行われるなど、2年ぶりの運動会を楽しみました。



鈴木校長も児童と一緒に全力疾走(久之浜二小)

「保護者、地区のみなさんが一緒に運動会の準備をしてくれました。保護者も一体となって行った、まさに『手作りの運動会』ですね。地区あつての小学校、小学校あつての地区、との皆さんの思いに児童たちも応えて頑張ってくれました」と、鈴木校長は話してくれました。

区長協議会

5月9日、久之浜・大久地区行政嘱託員(区長)協議会の定期総会が開かれ、役員改選が行われました。新役員は左記のとおりです。

【新役員】

- 会長 吉原 二六(西町2)
- 副会長 根本 美男(大久)
- 幹事 橋本 蒼延(南町)
- 幹事 鈴木 豊(北町)
- 監事 木田 寿夫(西町1)
- 監事 根本 重光(筒木原)



久之浜・大久地区行政嘱託員(区長)協議会会長 吉原二六さん(西町2区)

みなさんの安心・安全のため除染を進め、地道に二歩ずつ生活環境を整えていかななくてはなりません。

希望を持って前へ進めるよう、久之浜の産業再生を考えていかななくてはならないと思います。また、久之浜から離れ、内郷の雇用促進住宅や高久の仮設住宅で生活をする方が多くいます。定期的に訪問して連絡を取り合うなど、交流と情報の共有が必要だと考えています。

久之浜・大久 地域づくり協議会

5月26日、久之浜公民館で同協議会(木村芳秀会長)の平成24年度定例総会が開催されました。

昨年度は、震災の影響で例年通りの活動ができませんでしたが、本年度は目に見える形で久之浜の復興に向けたまちづくり活動、賑わい創出をめざした活動を行うことが確認されました。

久之浜・大久の みなさんへ



中央台高久第一応急仮設住宅自治会長の新妻美郎さん

中央台高久第一応急仮設住宅には全189世帯、そのうち久之浜・大久地区の方は約50世帯、130名余りが生活しています。

皆、久之浜に戻りたいんです。避難している人も久之浜のことが知りたい。町がどうなっているか、どうなっていくのかをもっと知りたいと思っています。皆で一緒に久之浜・大久のため力を合わせていきましよう。

休耕地で二つの挑戦始まる

オリーブの植樹

休耕地や耕作放棄地の解消などに向け、「サンシャインいわき」の温暖な気候と長い日照時間を利用してオリーブの栽培育成をめざす「いわきオリーブプロジェクト研究会(松崎康弘理事長)」。同研究会によるオリーブの植樹が、未続にある新妻尚二郎さん80歳の休耕地でおこなわれました。

用意された苗木は200本。いわきの気候と土壌に合った4種類が選ばれ、約1反歩(1000㎡)の土地に苗木が植えられました。

「今年の作付けをどうするか悩んでいたところ研究会を知りました。畑の表土を10cmほどはぎ取って除染。研究会の皆さんの指導を受けてオリーブの育成を続けたい。3、4年後、実がなればオイルへの加工など、これからが楽しみです」と、新妻さんの新しい挑戦が始まりました。

コットン・綿花の栽培

NPO法人ザ・ピープル(吉田恵美子理事長)が進めるオーガニック・コットン・プロジェクト。大久町北田の新妻英正さんから休耕地約1反歩の提供を受け、化学肥料に頼らない綿花の栽培が久之浜・大久地区でも始まりました。

5月12日、東京からNPO法人グリーンバードのボランティア40名が訪れて草刈り。その後、地区のボランティア金成清次さんらの手で土地の整備が行われ、5月26日、種植えが行われました。「どれだけ綿花が取れるかわからないけど、この畑で取れた綿花で作ったTシャツを皆で着てくれたらいいわね。それを考えるだけで楽しみ」と吉田理事長。発芽、開花、そして収穫へ、わくわくする日々が続きます。



平和と繁栄の象徴オリーブ。久之浜の地に根付き未永く実ることを願って



白河や東京からもボランティアが訪れ、種植えが行われました。

久之浜地区放射線量測定記録

(各区代表ポイント)

- 測定日:平成24年6月4日 ●天候:晴れ
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会安全専門部会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172(シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上1cm	地上100cm
田之網(田之網集会所)	0.49	0.47
南町(旧道沿い中央部)	0.16	0.12
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.14	0.11
北町(久之浜駅前)	0.23	0.18
東町(旧久之浜漁協前)	0.13	0.15
西町1区(西町公園付近)	0.36	0.24
西町2区(久之浜第一小正門付近)	0.63	0.25
金ヶ沢(鹿野付近)	0.61	0.50
末続(末続駅前)	0.45	0.33
大久(大久公民館付近)	0.30	0.26
筒木原(久之浜第二小西門付近)	0.25	0.20
小久(町田橋付近)	0.28	0.26
小山田(小山田集会所付近)	0.26	0.25

単位はすべて $\mu\text{sv/h}$

※(株)東北インベーターのHP <http://www.thkinnovator.co.jp/> により詳しい放射線情報をご覧ください。

久之浜第一幼稚園に

アラブの国からお客様



5月10日、久之浜第一幼稚園(青木孝子園長)が間借りする形で合同保育を行う志賀学園平第一幼稚園(志賀文岳理事長)にお客様が訪れました。

駐日モロッコ大使夫人アルール・唱子さんをはじめ、民族衣装に身を包んだ「駐日アラブ大使夫人の会」の5名の皆さんで、大きな絵本とアラブのお菓子をプレゼント。「外で遊ぶことが限られていると聞き、皆で読める、皆で楽しめる大きな絵本を持ってきました」と会長のアルールさん。

「たくさんのお菓子をありがとう。これからも力を合わせてがんばります」と園児を代表し、年長さくら組の4人があいさつ。お菓子を園児一人ひとりに手

渡すなど、和やかに交流が行われました。

その後、アルールさん一行はコンクリートの土台だけが残る久之浜第一幼稚園跡地を訪れ、震災当時の状況や当日避難した経路などを視察し帰京しました。



駐日アラブ大使夫人の会のみなさんから絵本を受け取る園児たち

伝統文化芸能の継承と普及を！

文化復興祭で四倉民謡会が

自慢のノドを披露

震災に負けずに、
昨年9月に活動を再開

浪江町出身の民謡歌手、原田直之さんが家元を務める原田流いわき支部 四倉民謡会。5月に行われた「いわき文化復興祭」で、4人の会員が「お立酒」「足尾石刀節」「音戸の舟歌」を披露しました。

生徒の晴れ姿を見守った同会代表で指南役の北村和明さんは「自分で唄うより生徒が唄うのを見て普段の力を出すことはなかなか難しいので、うまく出来るかどうか

見ている私のほうがドキドキしていましたが、みんな堂々としたものでした」と満足そうでした。

同会のメンバーは10名ほど。週に一度、四倉公民館で練習しており、個人の家で活動していた時期を含めると40年以上も続いています。

しかし、昨年は震災で活動が困難に。北村さんが経営していた会社津波で流され、練習していた四倉公民館も利用出来なくなったからです。

毎年参加していた「いわき民謡の会」への参加を見送り、四倉地区の文化祭も中止になりました。

北村さんも会社の片付けに追われ、練習を再開したのは9月末。当時、四倉公民館が使えなかったため大浦公民館に集合しました。

師匠の教えを胸に、個性に合わせた指導

北村さんは四倉地区文化協会会長と市文化協会副会長も兼務。「昨秋、す



四倉公民館で稽古に励む会員のみなさんと、指導に当たる北村和明代表(=写真中央)



先日のいわき文化復興祭では、メンバーのみなさんは大舞台上に臆せず堂々と唄いました

で文化復興祭をやるといふ話が出ていて、少しでも早く稽古を再開したいと思って集まることにしたんです」と当時を振り返ります。10月からは慣れ親しんだ四倉公民館に戻り、イベントに向けて稽古を重ねてきました。

北村さんの信条は「謡とは味」。それは師匠・原田さんの教えでもあります。

「声は人それぞれ十人十色です。声の質など生徒一人ひとりの個性を生かせるように指導しています。若い人たちにも民謡の魅力を知ってもらって、関心を持ってもらえればうれいすね」と話していました。

復活、新名物…道の駅に新商品が続々登場！

〈道の駅よつくら港〉で5月26日、27日に開かれた「よかつべ市」では、新商品が登場。〈松喜食堂〉のソースカツをバンドスではさんだ「よつくら福幸バーガー」、海老フライをロールパンにはさんだ「よつくら福幸ドッグ」は、来場者の人気を集めました。

〈お食事処 和〉の北海道産ホッキ飯は、震災前の名物メニューであり、今回から復活しました。

喜多方ラーメン「喜」の生ラーメンや、同施設オリジナルのレインボー手ぬぐいなどのおみやげも

第一幼稚園で遠足 ぼるるで興味津々の子どもたち

5月18日、四倉第一幼稚園の園児たちは遠足で市石炭・化石館ほるるを訪れました。

当初、21世紀の森公園のわんぱく広場を予定していましたが、当日が雨天だったため、同館に変更になりました。

バス2台に分乗して到着した園児と保護者ら約100名はさつそく館内を散策。実物大の化石が並んでいるコーナーと常磐炭鉱を再現した模擬坑道では、目を輝かせて見学していました。昼食は同館に隣接するウッド



雨でも遠足は楽しい！お昼にお弁当をほおぼる園児と保護者のみなさん

ピアイわきで。お弁当を食べたりおやつのお菓子を取つかえつこするなど、園児たちは楽しい時間を過ごしました。



華麗なダンスで「よかつべ市」に花を添えた平商フラガールズ「マハロハ」

好評でした。会場では小川中学校吹奏楽部の演奏や、平商業高校フラガールズ「マハロハ」のダンスがイベントを盛り上げていました。

四倉掲示板

ふれあい市民会議総会で 新役員が決まりました

〈四倉ふれあい市民会議〉の平成24年度、第8回通常総会が5月22日に四倉商工会館で開かれました。

平成23年度事業報告と同決算並びに監査報告の後、平成24年度事業計画(案)と同収支予算書(案)について審議しました。

事業計画(案)では、8月11日、12日に道の駅よつくら港交流館へ再オープンイベントを開催し、11日には鎮魂の花火を催すことと、9月に第17回いわき風揚げ大会(前夜祭29日、大会30日)を開催することが示され、収支予算書(案)とあわせ承認されました。

また役員改選も行われました。新役員は次の通りです。

- 〈会長〉佐藤雄二
- 〈副会長〉伊藤浩一、大和田洋光、阿部藤男、若松光、門馬裕、新谷尚美
- 〈理事〉川崎憲正、佐藤光、吉田(和正)、長谷川功、白土和之(新)、長谷川光克、佐藤敏文、曾我久美子、山中真広、愛川耕平(新)、渡辺啓、鈴木京子、岡田孝子
- 〈事務局長〉高倉郁也
- 〈事務局次長〉大須賀稔和、酒井

憲司

- 〈会計〉面川正隆、菅波紀子
- 〈監査〉鈴木公一、公平和俊
- 〈顧問〉長谷川直恵、猪狩正明、戸田邦司
- 〈相談役〉根本茂、坂本稔、小針美弘



改選後に「会員と行政のみなさんの協力を賜りたい」とあいさつする佐藤雄二会長(=写真右)

いわきのイチゴで商品開発 玉屋菓子店の挑戦

四倉町上仁井田の玉屋菓子店は、平商業高校流通ビジネス科の生徒たちがプロデュースしたお菓子「どらいちご」「焼きドーナツ」を商品化して、話題を集めています。

「どらいちご」は生地と餡に、「焼きドーナツ」は、生地とコーティングのチョコに、いわき産のイチゴを使っているのが特徴。これらの商品は今年3月末の道の駅よつくら港のよかつべ市で初めて販売。以降、イベントなどがあるたびに製造、出品し

ています。

「会場では生徒さんたちが商品のPRや接客をしているんですが、おかげさまで知名度も上がってきて、ゴールデンウィークのイベントでは大好評でした」と同店代表の志賀良信さんも手ごたえを感じています。

志賀さんは三代目として看板商品のスタンダードなど焼きを作る一方、新商品開発にも積極的に、今後も地元の特産品を使った菓子を考えているそうです。

「震災で気持ちも暗くなりがちだと思いますが、うちのお菓子を食べて、楽しくおしゃべりして、みなさんが明るくなつてもらえれば嬉しいです」。



いわきの特産品を使い、新商品開発に取り組む志賀さん

津波に負けずに

そろばん教室が授業を再開

東二丁目のいわきそろばん教室四倉教場は、津波により教室が全壊し、机などの備品や大会のトロフィーなどが流失しました。しかし、多くの保護者から再開し欲しいと要望が寄せられたた

め、同じ場所に新しい教室を建て、備品をそろえ直して、昨年10月11日に授業を再開。

万が一に備えて、毎月一度は避難訓練を実施して子どもたちの安全に気を配りながら、授業を続けています。

震災や原発事故による避難などで生徒数は少し減ったものの、15時30分の授業開始が近づく、「こんにちは」「たたいま」と子どもたちが次々に教室に集まってきました。

代表の長谷川博巳さんは「そろばんだけでなく、『ダメなものダメ』ということをきちんと教え

て、優秀な子どもたちを育てたい」と意気込んでいます。



真新しい教室で、仲良く授業を受けている生徒のみなさん

たったひとつの宝物

いつまでも元気でいて欲しい 阿部久江さん

愛犬の拳は平成14年に親戚からもらってきたんです。拳がうちに来た前年、家業(四倉瓦工業)が主人に代替わりして社名も変更したんですが、急に仕事が増えたので、幸運を運んできてくれたのかなと思いました。

主人は仕事から帰って来ると、拳に添い寝して、頭をなでてあげたりしているんですが、1日の疲れが取れて、癒されるそうなんです。

うちに来て10年、ずっと病気もせずに健康でした



久江さんとソファでくつろぐ拳。阿部家に癒しを与える存在になっています

笑顔の風を吹かせて

豊間の橋本美和子さん

豊間字免渡路で被災した橋本美和子さん(57歳)。自宅や30年以上勤めた会社が津波の被害に遭い、生活は一変しました。そんな中でも「少しでもお役に立てるなら」と地元の子どもたちに寄付を寄せたり、手縫いの雑巾をプレゼントしたりと、「幸せのおすそ分け」を始めています。

震災後もらった 励ましの言葉

橋本さんは結婚を期に豊間に移り住み、地元の水産加工会社(印水産)に就職。周囲の人に支えられ2人の子どもを育てながら、同社の事務員として33年勤めてきました。退職後のことを考え、後輩たちに仕事を託す準備を、と考えていた矢先に震災に遭いました。

津波は一瞬にして、橋本さんの自宅や仕事など愛情込めて築いてきたものを奪い去りました。

ぼう然と日々を過ごす中、橋本さんに力をくれたのは、仕事で知り合い、何気ない言葉を交わしながら長くつながってきた人々から

の言葉でした。

通信手段が絶たれる中、ようやく電話がつながると「生きていてよかったです」と涙ながらに喜んでくれた人。遠方から駆けつけ、会社周辺で「の印の従業員は大丈夫か」と辺りの人に聞き回ってくれた人。中でも印象的だったのは、関西地方に住む取引先の男性。阪神淡路大震災の経験からの確かなアドバイスをくれ、何気ない日常を一緒に喜び、「あなたは風を起こせる人だと思えよ」という温かい言葉をくれました。少しずつ元気を取り戻した橋本さんは、昨年9月、テレビでTUF主催の「愛と生命のメッセージ」絆あなたへの便り」の募集を知り、前へ進む勇気をくれた人々へあてた手紙



「お世話になった地域のために力になりたい」と語る橋本さん

を 一 気 に
書 き 上 げ
て 投 かん。
入 賞 し て
得 た 賞 金
5 万 円 を
「 豊 間 の 子
ど も た ち
の 笑 顔 の
基 金 の 一
部 と し て

役立ててほしい」と小・中学校のPTAに贈りました。

手縫いの雑巾で “幸せのおすそ分け”

一方、自分を育ててくれた会社は再建を断念することに。それでも「いつまでも被災者の気分浸つては何も進まない。自分で立ち位置を決めなくちゃ」と考え、行動し続けています。今年4月には県の臨時職員として新しい仕事も始めました。

目下の楽しみは、和裁の経験を生かした趣味の時間。タオルから普段使いのできる雑巾や手ぬぐいを仕立てては手紙を添えて友人や知人、再開した事業所など思いつくままに贈っています。

「夜、好きな音楽を聴きながら無心に針を動かすひと時が何よりの幸せ。ありがたう、待っていたよ、と喜んでもらい、使ってもらえるのもっとも幸せになれるんです」と微笑む橋本さん。幸せが2倍、3倍にふくらんでいくことを楽しみに、少しずつ笑顔の風を吹かせています。



5月9日には豊間小・中学校を訪れ、両校のPTAに計5万円を寄付しました

ボランティア団体が 通学路に花を植栽

ボランティア団体「ごち会」(田代ともや代表・埼玉県)は4～6月にかけて豊間・薄磯地区を訪れ、住民とともに通学路への植栽や種まきを行いました。

子どもたちの通学路を華やかにするとともに、避難生活を送る住民が地元で再会できるきっかけになればと実施。4月に花の苗約4,200株を植栽し、5月以降は豊間中付近の約2千㎡の空き地や通りにヒマワリ、コスモスの種をまきました。

4月の植栽に家族総出で参加した、豊間字原町の橋本幸子さん(72歳)は「いつも支援してもらって感謝しています」と語り、心を込めて作業していました。



津波で流失してしまった自宅跡に花を植える橋本さんら一家



豊間小復興祈念大運動会

子どもも大人もみんな笑顔に!

5月19日、2年ぶりに小学校の運動会が行われました。前日まで降り続いた雨で校庭のコンディションが心配されましたが、同じ校舎で学んでいる中学生が総出で水取りなどの作業をしてくれ、万全の状態で開催しました。

“復興祈念”と銘打った今回の運動会。オープニングセレモニーでは、水谷大校長や志賀幸重PTA会長、区長らが復興を誓う宣言をし、112名の児童が一斉に、風船を空に放ちました。

赤を「真っ赤な太陽組」、白を「白い灯台組」として競技を行いました。「勝ち負けにこだわるのではなく、互いを“仮定の困難”にたとえ、乗り越えようと努力する運動会にしたかった」という水谷校長。その思い通り、校庭には真剣なまなざしで競技に向き合い、心からの笑顔を見せる児童たちの姿がありました。



豊間区
みんなの家
完成

豊間区の新しい連絡所
「みんなの家」(豊間字榎町)が
6月3日に完成しました。
詳細は次号でお知らせします。



総会には避難先からも多くの人が集まり、地域の今後について関心の高さがうかがえました

薄磯区が24年度総会
区の法人化などを議決

薄磯区(志賀隆一郎区長)の24年度総会が5月27日、豊間小体育館で行われ、住民約120名が出席しました。収支決算報告や今後の事業計画を話し合ったほか、区の所有する不動産の所有権移転等の手続きを簡略化するため、同区を地縁団体薄磯区会として法人化することなどを決めました。

同区では区の所有する土地の名義を役員としてきたことから、役員が変更するたびに名義変更などの手続きが必要でした。法人化すれば書類上の手続きも簡略化されるため、昨年の総会以降、地縁団体として法人化することを話し合ってきました。

総会では、役員に区の役員がそのまま着くことなどを定めた新しい規約を、ほぼ全会一致で承認しました。市の認可を受けて正式発足します。

本年度は昨年、市に要望活動してきた防犯灯が地区内に設置されるほか、新しい避難場所案内図を作成する予定です。また、復興計画についても薄磯復興協議委員会と協力のもと進めていきます。

席上、鈴木勝同委員長が活動報告し、「進捗よく状況などが分かるよう、情報発信のあり方を考えていきたい」と話しました。

薄磯地区の
高齢者学級

豊間公民館で5月18日開かれ、「百笑溢喜」の芸名で活躍する市民講師・植松泰宏さんが講演しました。



植松さん(右)の話に大笑いの受講生

薄磯の第三あけぼの会(烏居喜一郎会長)のメンバー24名が受講。植松さんは時事問題を取り入れた話で終始、受講生を笑わせ、「生きているとストレスばかり。地震、津波、放射能に竜巻もある。1番健康にいいのは笑い。笑いは副作用のない妙薬」と元気づけました。また、手品では「福幸いわき」の文字を出し会場を沸かせました。



エプリアで行われた健康相談に参加する市民

子どもたちに
お手玉寄贈

5月24日、豊間婦人会の鈴木勝子会長、斉藤恭子副会長が豊間小を訪れ、お手玉などの玩具を贈りました。



もらったお手玉を手にニコリと笑顔

お手玉は静岡県御殿場市赤十字奉仕団が手作りしたもの。同17日に市内で、いわき市内の赤十字奉仕団との交流会が行われ、同婦人会の鈴木会長、田山ミツ子さんらが震災時の体験を語りました。



志賀区長(中央)に寄付を届けた鈴木さん(左)

この日に託されたプレゼントを同小の1年生全員に贈りました。児童は「ありがとうございませう」と元気に応え、昔懐かしい玩具に目を輝かせていました。

看護の日の
イベント開催

豊間字兎渡路の国立病院機構いわき病院が5月19日、鹿島ショッピングセンターエプリアでイベントを行いました。



エプリアで行われた健康相談に参加する市民

静岡から
善意12万円

静岡県御前崎市の朝比奈地区、3町内会の役員約50人が5月20日に薄磯地区を視察に訪れました。一行は(尙山六観光)で同社の鈴木一好さんから薄磯区役員から震災当時の話を聞いた後、鈴木さんに義援金を託しました。これは下朝比奈町内会長・坂本守さんら有志のメンバーが仲間同士で集め



志賀区長(中央)に寄付を届けた鈴木さん(左)

た善意の12万円です。寄付金は次の日、薄磯区に贈りました。義援金を受け取った志賀隆一郎区長は「地区の復興に役立てたい」と話しました。

踏み出そうゴールへ続く白線を 港町特有の大漁旗を掲げて

江名小学校春季大運動会

高学年が中心となり準備
思い出に残る運動会に

2年ぶりとなる春季大運動会
が5月19日に開催されました。

校舎の中央には児童が考えた
スローガン、そしてペラндаからは
何十枚もの大漁旗。子どもたちは
は、この日のために5月のはじめ
から準備に取りかかっていた。

スローガンは、4、6年生全員
が考え先生に提出。選考の結果、
6年生の鈴木留美香さんの”踏み



大漁旗は、
漁師の方が学校に
寄贈してくれたもの

最後まで諦めずに
頑張りました



三人四脚で
ゴールを目指した
「先生といっしょ」



パンフレットの
表紙になった
鈴木さんのポスター



各係りで
当日の役割を
最終チェック



5、6年生が
協力して準備

は、ラミネートされ宣伝のため商
店などに貼られました。
待ちに待った大運動会
天気も気持ちも晴ればれ

前日の悪天候の影響で、校庭
にはたくさん水たまりができ
ていましたが、高木典子校長をは
じめ、諸先生と保護者の方々が
朝5時半から整備を行ったおかげ
で、無事子どもたちの元気な
笑顔を見ることができました。

午前中のみ開催となりました
が、保護者の方々には「子どもた
ちが校庭で演技ができるように
なり、少しずつだが平常に戻って
いることがうれしい」と微笑んで
いました。

”たらちね“

子どもたちを見守りながら未来を紡ぐ

昨年11月に開設された(いわ
き放射能市民測定室たらち
ね)。「自分たちの置かれてい
る現状を認識する必要性を感
じたことから、食品、全身それ
ぞれの放射能測定をはじめま
した」と話すのは事務局長の鈴
木薫さん。



たらちねでは、セシウム吸収効果が期待
される「ソルガム」を使って、土壌の除染を
試みている

開設当初、1台だった食品放
射能測定器は現在4台に増え、
多くの依頼に迅速に対応する
ことができるようになりました。
料金は試料1点につき
500円(測定は申し込み順)。
プラス1,000円で特急対応
が可能。

今年3月2日からは、土壌放
射能測定もスタート。家庭菜園
などをされている方の利用が多
く、3月の利用だけでも80件も
あったそう。1試料2,000
円。食品、土壌ともそれぞれ1
度に2点まで申し込みが可能。
そのほか、全身放射能測定器



職員が食品の放射能を測定している様
子。市民のみなさんの関心が高く、たく
さんの方が利用しています

「4月から放射性セシウムの
基準値も新しくなりました。
もつと現状と向き合い自分たち
ができることを考え、自分たち
の手で命や暮らしを守っていき
ましょう」と鈴木さんは力強く
話しました。

測定は予約制で、FAXまたは来室、
郵送(申込書)、ホームページからの
申し込みとなります。

いわき市小名浜花畑町11-3
カネマンビル3階
TEL・FAX.0246-92-2526
受付時間/11:00~15:00
<http://www.iwakisokuteishitu.com/>
休日/木・日曜日、祝祭日、年末年始



あいさつの中で感謝の気持ちを述べた金成克哉会長

5月16日、小名浜地区行政嘱託員(区長)連合会総会がパレスいわやで開かれました。退任者へ感謝状の贈呈、行政嘱託員在職10年の表彰および、新任者への委嘱状交付が行われました。

議事では平成23年度事業、収支決算、会計監査の報告、平成24年度事業計画と予算などを議決。役員の変更も行われ、前年度役員が留任することとなりました。金成克哉会長は「沿岸部に大きな被害を受けた小名浜ですが、公共施設も復活し活気が戻ってきました。これも皆様の協力があったことだと感謝しています。今後も小名浜地区発展のため、

小名浜地区の復興とさらなる発展を目指して

皆様のお力をお借りしたい」とあいさつをしました。

【役員】

〈会長〉 金成克哉(江名第3)

〈副会長〉 運賀達郎(汐留)

〈監事〉 國分信夫(鹿島台団地)

〈庶務〉 有川稔(玉川町南2)

〈会計〉 小野孝太郎(東諏訪町)

鈴木弘伯(泉ヶ丘第2)

長瀬親正(須賀町)

小野民子(住ヶ谷)

想いを歌にのせて 音楽がつなぐ 仲間との絆



2年に一度、小名浜市民会館で開催する定期演奏会に向けて練習中。来年開催の予定

小名浜地区で合唱サークル活動を行っている「コーロさざなみ」。現在メンバーは19名。

同サークルは平成16年に発足。市民講師の星野成子先生による指導のもと、活動を行っています。

震災後、公民館が使用できなくなったため、活動を休止していましたが、合唱を続けたいというメンバーが多く、昨年6月から再開。5月12日には、いわき芸術文化交流館アリオスで行われた「いわき文化復興祭」へ参加することができました。

メンバーたちは「明るい人が多く、参加してから自分も明るくなった」「みんなに会ったのが楽しく、少し調子が出ないときも欠かさず参加している」「歌を通してまちの復興を応援していきたい」と、再開できたことを喜びあっていました。

コーロさざなみ

活動日 毎週火曜日13時～15時

場所 小名浜公民館3階

視聴覚室

毎月第3水曜日、医療生活協同組合小名浜生協病院で歌を披露するボランティア活動なども行っています。随時、メンバー募集中!!(会費あり)

問い合わせ 今野昭子さん

☎090・8617・7586



いわき文化復興祭では、「白い花」「北斗」を披露しました

親睦を深める交流会 小名浜、泉両地区で開催中

5月17日、小名浜公民館で一時提供住宅などに住んでいる方を対象に交流会が開かれました。

今回は「いわき芸能倶楽部」の催し物があり、けん玉8(エイト)さんの新技披露や古扇亭唐変木さんの落語を聴き、楽しいひとときを過ごしました。

これまでの交流会で、自作の紙芝居やおもしろ話を披露してきた参加者の男性は「畑にいる時と、ここにいる時が一番イキイキしていられます」と笑顔で話しました。



落語を聴いてたくさん笑いやかな交流会に

■小名浜地区交流会

日時/毎月第3木曜日13:30～
場所/小名浜公民館3階講義室

■泉地区交流会

日時/毎月第2火曜日13:30～
場所/泉公民館1階和室

お問い合わせ 小名浜地域包括支援センター ☎0246-54-2945

小名浜トピックス No.3

地域の交流の場を提供したい 震災を乗り越えて再開



TOME DOKO
再開の喜びをかみ締めカットをする二代目

93歳まで現役だった初代(前左)

先代の志賀留蔵さんが、江名港前に理髪店(留床)を構えて今年で56年。震災の影響で、店舗兼自宅が半壊になり約14か月にわたり休業していましたが、建物を新築して5月8日に再開。

店主の志賀一雄さんと奥様の稲子さんには、「絶対再開するぞ」という強い思いがありました。休業中は、江名に一軒家を借りて暮らしていましたが、なじみのお客さんたちが遊びに来ていたそうです。

開店間もないお店もすでに地域の交流の場に。稲子さんは「先代が作り上げてきた歴史を守り、地域を活気づけながらみんなに愛されるお店にしていきたい」と話していました。

●営業時間/8:00～18:00 ●月曜日定休 ☎0246-55-7339

震災を乗り越えて…歩みを進める錦東小学校

震災から今日へ 平常な学校生活に向かって

震災時、避難所として使用されていた錦東小学校。被害を受けた近隣の方々が、およそ100名集まり、校舎の2階と3階を使って、2週間ほど避難生活を送っていました。

校舎周辺の地面が50cmほど陥没したものの、幸い校舎自体に大きな被害はありませんでした。体育館は大きな被害を受け、使用禁止になってしまいました。しばらくの間、児童たちは空き教室を使い体育の授業を行っていました。が、改修工事を経て今年3月、使用可能に。卒業式、入学式も、無事に体育館で行うことができました。



147名の児童を代表し、さわやかな青空のもと元気いっぱいに宣誓する、柳原君と兼平さん

青空の下、元気いっぱい 躍動する子どもたち

5月19日、震災後はじめてとなる、春季大運動会が開かれました。昨年秋季には、大幅に規模を縮小したかたちでミニ運動会を開催しましたが、大運動会は2年ぶりとなります。

晴天にも恵まれ、絶好の運動会日和のもと、開会式では6年生の柳原宏紀君と、兼平いずみさんが宣誓。「地域の方に元気を配れるような、ハツラツとした演技をします」と元気に誓いの言葉を述べ、児童たちは「心を一つにつなげよう！友から友へ『絆』のバトン」をスローガンに、仲間と協力し、チーム一丸となつて力強く競技しました。



子どもたちから募集し、決定したスローガン。「全児童が一丸となって頑張ろう！」という思いが込められている



フラッグやリングバトンなどを使った華やかなパレードで、会場を色鮮やかに盛り上げた

昨年と比べて、子どもたちが外でのびのびと遊べるようになり、日ごとに元気を取り戻していく様子を見て、原田真一校長は、「やはり、外での活動は子どもたちにとつていいストレス発散になりますね。保護者も、不安に思っている方が多いと思いますが、安心して学校生活を送れるよう配慮していくので、不安よりも、楽しみに話をしてくれました。」

東田町に地域の方たちの 交流スペースがオープン

どなたの憩いの場

東田町二丁目、地元の方々のためのサロンへなこそ交流スペースが完成しました。

この施設は、NPO法人勿来まちづくりサポートセンター（館敬理事長）が、郵便事業株式会社の子会社年賀寄付金配分事業にサロン開設を申請。助成が決定し、設置が実現しました。

地域住民の交流のために使用したり、被災された方々の集いの場など、さまざまな地域活動に利用できます。また、インターネットを使えるようにパソコンを設置したり、復興に関する資料を置くなどして、ボランティア活動のための情報交換にも活用できるよう、少しずつ設備を整えていく予定です。

利用期間は、6月1日から来年の3月末まで。交流スペース



6月から、1階の左側がなこそ交流スペース、右側がなこそ復興プロジェクト事務所となった



勿来を元気にするべく、今後の復興活動について真剣に協議する、なこそ復興プロジェクトのみなさん

を運営していくにあたって、館理事長は「どなたでも自由に立ち寄れるような場所にしていきたい」と話しています。

地域の未来を創る

5月22日、交流スペースを使って、第16回なこそ復興プロジェクト全体会議が開かれました。

事務局、復興計画グループ、生活支援グループの3班から、現在の活動状況が報告され、今後のイベントの開催や、サロンの運営について話し合いました。

また、6月1日から同施設内に、復興プロジェクトの事務所を設置。常時、担当者を配置しており、どなたでも気軽に立ち寄れるようになっていきます。

いわき市東田町2-14-10 1F
利用時間 10時～16時
☎0246-635055

行政嘱託員(区長)連合会役員が決定



行政嘱託員(区長)連合会役員のみなさん

5月16日、平成24年度、勿来地区行政嘱託員(区長)連合会定期総会が、勿来温泉・関の湯で行われました。

退任者には解嘱状と記念品などが贈られた後、新たに行政嘱託員となった新任者25名への委嘱状交付が行われました。

中島利男前会長からは、「東日本大震災での支援や復興活動に関して、皆様には感謝いたしません」とお礼の言葉が述べられ、大山登新会長は、「委嘱されました皆様、どうぞよろしく願います」と24年度新役員と区長を合わせた113名の方々に、あいさつされました。

議事では、平成23年度事業報告、会計監査報告がなされ、平成24年度事業計画案、収入支出予算案、役員改選案が提案のとおり議決されました。

【新役員】

- 会長 大山登(中田6)
- 副会長 横山英司(金山北)、長久保徳雄(窪田一丁目)、田子稔夫(川部上川東)、坂本繁男(下山田上)
- 事務局長 小沼裕一(勿来駅前西2)
- 会計 山田正男(上町)
- 理事 鈴木昭二(高倉1)、石井次夫(金山南)、助川久(中田8)、高木正己(後江栗1)、小野一男(四沢1)、甲高忠(前大高)、安島達男(三沢)、秋山茂(上山田下)、川上保廣(大昭)、佐々木輝美(鳳城)
- 監事 山田益嗣(大倉1)、芳賀茂(沼部2)

お知らせ
いわきの象徴が
また一つ再開

勿来海水浴場は、7月16日に海開きすることが決定。放射線量が継続的に基準値を下回り、避難経路が確保できたことで、市内では唯一のオープンとなります。

1日に最大5万人もの海水浴客が訪れたこともある、大きな規模を誇る同海水浴場ですが、昨年は、余震や原発事故の影響でオープンが見合わされました。

勿来・小浜海水浴場安全対策実行委員会の渡邊徳二会長は、「一時的でもかまわないので、震災のことを忘れて、たくさんの人に楽しんでもらいたい。また、美しい海を守るために、ゴミの持ち帰りなど、ご協力をお願いします」と話していました。

期間は8月12日までの28日間となります。



青空の下、果てしなく広がる勿来の海を砂浜から見つめる渡邊会長

元気いっぱいなこそびと

みなさんの笑顔からパワーをもらって...

佐糠町二丁目にお住まいの八代邦光さんは、自宅で栽培した野菜を、10年にわたって、近隣の方々にすすわけています。

鮫川堤防のすぐそばにある自宅は幸い無事でしたが、庭の畑には津波の影響で川から溢れた水が押し寄せ、育てていた玉ねぎなどの野菜も、全て収穫できなくなってしまいました。

しかし、八代さんの強い思いによって、畑を再生し、再び野菜を育てられるまでに。今も、心を込めて育てられ、収穫された新鮮な野菜は、近所の方々の食卓に並んでいます。「あの時のことを思い出すと今でも不安になるが、苦労して作った野菜を分けてあげた時の、みなさんの笑顔を見ると元気になる。それが生きがいなので、これからも続けていきたい」と笑顔で話していました。

この日も畑の手入れをしていた八代さん。いつも元気に、おいしい野菜を作っています

老舗の地魚料理店が新装開店

津波に負けず、元気に復活!

植田町にある地魚料理店〈東や〉は、30年にわたって、地域の方々に愛されてきました。

同店は、津波の影響により1m40cmほど浸水し、およそ2ヵ月間、やむを得ず休業することに。そのため、店主の増淵正彦さんは、昨年4月末から、隣の仮店舗で営業を再開。同時に、もとの店の改築工事がはじまりました。

そして、5月3日にリニューアルオープン。新しくなった店内には、津波から難を逃れたという、以前も使用されていたテーブルが使われており、震災前の東やの面影が感じられます。

一新した店舗に飾られた看板に、「地魚料理」と書かれていることに因って、奥様の洋子さんは「現在は残念ながら地魚は使用していません。『早く地元のおいしい魚を、安心して食べていただきたい』という願いを込めて“地魚”と入れました」と思いを話してくれました。

植田町本町3丁目2-9 ☎0246-63-2961

- ランチ営業時間 11:30~13:30(月曜日以外)
- 通常営業時間 17:00~22:00 ● 日曜日定休

生まれ変わった東やと、奥様の洋子さん。たくさんのお客様のお越しを、お待ちしております

新設と拡幅で復興道路を整備へ

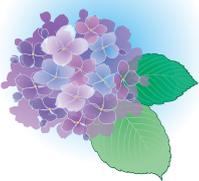
市は国の復興交付金を活用し、災害時の避難路として津波被災地域と市街地を結ぶ復興道路の整備事業に着手します。

事業を実施するのは久之浜地区の駅前中町線、薄磯地区の沼ノ内薄磯線と(仮称)南作青井線、勿来地区の関田江栗線の4カ所です。

新たに道路を造る(仮称)南作青井線は、幅10mで豊間小学校から西側の県道に抜けるルートになる見込みです。

ほかの3路線は現在の道路を拡幅します。久之浜の駅前中町線は幅12メートル、沼ノ内薄磯線と関田江栗線は幅10mを予定。

今後、地元の意向を踏まえて事業を進めていきます。



「復興への希望を感じて」 版画家坂本さんが作品展

版画家・坂本勇さん(81歳)は震災後の薄磯の風景を描いた「希望の花」などの作品を制作しました。この作品を含む11点をひまわり信用金庫の各支店で巡回展示しています。

坂本さんは大震災の翌日、薄磯で被災した親族のもとに駆けつけました。のどかで美しかった海辺の町は一変し、混乱と悲しみに明け暮れる人々の姿を目の当たりにしました。

しばらくは片付けなどに追われ、何もできない状態でしたが、友人に励まされ「生きている証を作品に残したい」と考え始めました。「希望の花」は、がれきと化した町に咲くひまわりの大輪が復興への希望を感じさせる大作です。

作品展は6月末ごろまで小名浜支店で行われます。その後の日程は同信金 ☎0246-23-8500までお問い合わせください。



「希望の花」の前に立つ坂本さん(左)と台正昭理事長

雇用促進住宅で一斉清掃

5月13日、内郷高坂町の雇用促進住宅で一斉清掃が行われました。同住宅の自治会では、今年度から毎月第2日曜日に清掃を行うことになりました。この日は住民約300名が参加し、朝から草刈りやごみ拾いに汗を流しました。

その後、キリスト教系のボランティア団体(チーム平堂根)(氏家 和仁代表)をはじめ、仙台や関東地方の関連団体からも国際色豊かな面々が参加し、炊き出しを行いました。住民自ら調理や配膳にも参加。晴天の下、食事をしながらフィリピン、ペルー、ブラジルなどの伝統芸能を楽しみました。



民族音楽を楽しむ住民たち

絵手紙で世界に1枚だけの作品づくり

中央台高久第一応急仮設住宅の集会所では、絵手紙教室を開催しています。(いわき絵手紙の会)の指導で、野菜や果物などを見ながら墨で下絵を描き、顔彩(絵の具)で色を付けていきます。

5月8日の教室に参加した薄磯出身の鈴木京子さんは、イチゴ、トマト、キウイフルーツを机に並べて、真剣な表情で絵筆を走らせていました。

「色を付けるところが難しかったのですが、先生方に教えて頂いて、うまくできました。次回も参加しようと思います」と出来ばえに満足した様子でした。

教室は毎月第2火曜日の午後1時から開催で、7月以降の予定はスタッフブログなどでお知らせします。



生活支援相談員からメッセージ 「笑顔」と「元気」届けます!

いわきのまちを「笑顔に!」
ボラセン
だより
No.2

私は主に平地区を担当し、仮設住宅や雇用促進住宅、民間借上げ住宅等に避難されている方へ明るい「笑顔」と「元気」を届けに訪問しています!困りごとや聴いて欲しいことなどがありましたら、いつでも気軽に声をかけてください。黄色い腕章が目印です。

プロフィール

氏名 根本みゆき
担当地区 平
星座 いて座
血液型 AB型

高校生と中学生の子を持つ母親で、主婦としても毎日頑張っています!



いわき市社会福祉協議会
いわき市復興支援ボランティアセンター

いわき市平字菱川1番地の3
☎0246-38-6631
http://iwakisaigaivc.blog.fc2.com/
携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。



いわき市 ふるさとだより 第13号

平成24年6月20日発行

●発行:いわき市
●編集:有限会社 いまあじゅ
http://www.asally.co.jp
ふるさとだより編集室

●編集室:〒973-8411
福島県いわき市小島町3丁目3-3
プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp
http://www.furusatodayori.com

ふるさとだよりに情報や感想をお寄せください!

- メールの方 / furusato@asally.co.jp
- 携帯電話からのメール
QRコードを読み取ってください。→
- FAXの方 / ☎0246-26-5157
- おたよりの方 / 右記編集室まで



いわきあいあい情報発信中!!
いわきあいあい 検索



スタッフブログ更新中! http://ameblo.jp/furusato-iwaki